

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

福島は今～原発30km圏からのレポート<5> 「汚染水はどこに」

笹子美奈子（目白ヶ丘教会員）

東京電力福島第一原発事故後、様々な聞き慣れない言葉がニュースに踊りました。汚染水もその一つです。汚染水とは本来「化学物質などで汚染された水」ですが、最新版の辞書では、「原発事故後は放射性物質を含む排水や地下水を指すことが多い」などと補足されていることもあります。事故直後は汚染水がタンクから漏れた、海に流れたと大騒ぎになりましたが、最近はあまり話題に上らなくなりました。しかし問題が解決されたわけではなく、むしろ深刻化しています。

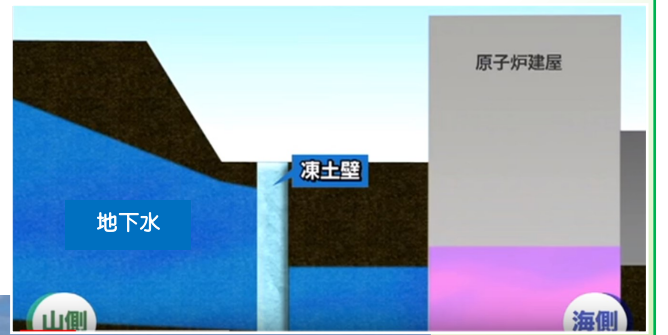
汚染水が発生する大きな原因は地下水です。海岸に立地する福島第一原発には山側から地下水が流れ込み、その水が放射性物質で汚染され、1日あたり約400トンの汚染水が発生していました。これを防ぐため、切り札として考案されたプロジェクトが凍土壁です。原子炉建屋の周囲の土を凍らせて壁を造り、地下水が入り込まないようにする仕組みです。政府は約350億円を投入し、総延長約1500mにわたって約1mおきに地下30mまで約1500本の凍結管を埋め込み、凍土壁を完成させました。8月に全面凍結を開始し、周囲の土はマイナス0度以下に達しました。ところが、大きな効果が出ていないことが最近の調査でわかりました。試算では汚染水の量を数十トンに減らせるはずでしたが、10月の平均値は300トン超でした。

そうするとタンクにため続けるしかありません。現在約900基のタンクに約100万トンの汚染水が保管されており、原発敷地の約3分の1を埋め尽くす勢いです。放射性物質除去装置である程度まで放射性物質濃度を下げることができますが、トリチウムという物質だけは取り除くことができません。そこで政府はトリチウムを含んだ汚染水の海洋放出を検討しています。政府の検討資料によると、「トリチ

ウムが人体に与える影響は食品中の放射性物質の基準として設定されている放射性セシウムより極めて小さく、約1000分の1となります」とあります。しかし地元の漁業者などは反対しており、海外からの批判も必至です。

2020年五輪の招致レースの最中、汚染水が海洋流出し、日本は世界から非難を浴びました。安倍首相は「私は約束する。（福島第一原発は）アンダー・コントロールだ」と断言して東京開催を勝ち取りました。凍土壁が失敗に終わった今、安倍首相はこの発言の落とし前をどうつけるのか、注視したいと思います。

凍土壁による地下水遮断のイメージ ↓



福島第一原発に増設される汚染水タンク ↓

出典は経済産業省資料より



現地支援委員会より 現地支援委員長金丸真（仙台長命ヶ丘教会）

東日本大震災から7回目のクリスマスを迎えます。被災各地では、全国各方面の皆様からいただいたクリスマスプレゼントを、この12月にそれぞれ被災された方々にお届けします。小さな働きですが、イエス・キリストがこの世のただ中に生まれてくださった希望が、被災された方々にも届くように祈りつつお届けします。皆様の変わらぬお祈りとご支援をありがとうございます。

12月の各地の支援活動は以下の通りです。

- 12月9日（土）
 - 緑ヶ丘仮設住宅（福島）：郡山コスモス通り教会ゴスペルクワイアで訪問。
 - 牡鹿半島牧浜仮設住宅・荻浜・鮎川浜訪問（宮城）：仙台教会、大富教会、南光台教会、長命ヶ丘教会、百合丘教会で訪問。
- 12月11日（月）
 - 互理町訪問（宮城）：長命ヶ丘教会で訪問。
- 12月14日（木）
 - 大槌町安渡、第4第7仮設住宅訪問（岩手）：盛岡教会、山形教会で訪問。

また、金子千嘉世牧師（郡山コスモス通り教会）が宮崎で闘病しておられます。治療のために、引き続きお祈りください。

2018年度の東日本大震災被災支援活動について

去る11月14日～17日に行われた第62回連盟定期総会（於天城山荘）において、2018年度の被災地支援活動計画が承認されました。この活動は震災直後から今日までに培ってきた被災地の方々との「絆」を大切にして、苦しみや悲しみに寄り添い、慰めを分かち合う働きとして続けてきたものです。被災地の復興の長期化が避けられない中であって、被災住民の方々の環境は徐々に変わりつつあり、それぞれの状況を踏まえた新たな対応が求められてきている現実にあります。可能な限り長く支援の絆を保っていくために、次の2項目を中心に活動を進めていきたいと思います。また、「3.11を忘れない」ポスター、「祈りの絆」、「現地支援委員会ニュースレター」、「現地支援委員会 感謝を込めた瓦版」の発行を通して、被災地の状況をご報告していく所存です。

◇ 現地支援委員会による被災者支援活動

従来からの岩手、宮城、福島の各教会が中心となり被災者訪問等の支援を継続していきます。仮設住宅からの退去が徐々に進んできている中、仮設住宅に残され、焦燥感にさいなまれている住民の最後の一人まで寄り添っていく所存です。

また、福島第一原発事故による避難住民の方々については、帰宅が見通せない状況のもとで多くの高齢の方々が仮設住宅に取り残されていくことが懸念されています。長期にわたる支援のありかたを検討していきたいと思います。

◇ 福島第一原発事故による被災者支援活動

福島県の教会のため、子ども避難保養プロジェクトと被ばく検診、「除染」等、将来にわたって健康を維持するための活動を重点的に実施していきます。その中でも特に甲状腺検診と、長期にわたるストレスから体調を崩される方々へのがん検診を含む総合健診の継続が重要と判断しています。息の長い活動として進めていきたいと思います。

2018年度は、募金600万円に前年からの繰越金を加え2,100万円を財源として、現地にある教会による被災地支援活動（325万円）、福島第一原発による被災者支援活動（445万円）、広報及び支援活動推進のための共通費（196万円）と合わせて966万円の予算を計上しました。（事務局）

2017年震災募金報告

11月累計：**191万円**（目標600万円）

10～11月 募金者 18名・件（受付順、敬称略）

感謝してご報告いたします。

川越、調布、太田、仙台バプテスト伝道協議会、久保祐子、盛岡、常盤台、調布、高知伊勢崎、中野、田中晶矩、東大阪、日立、宮崎、西関東連合女性一日研修会バザー、古賀、福岡、八幡、書籍販売、

引き続きお支えをお願い申し上げます。

